



84年間町の移り変わりを見守った旧滑河駅舎



国鉄時代の駅のプレート
(下総町立歴史民俗資料館所蔵)



下総町・大栄町

JR滑河駅

108年の歴史をもつ 下総町の表玄関

現在、成田市内には鉄道の駅がいくつあるか知っていますか？
JR成田線には成田駅、下総松崎駅、久住駅、空港第2ビル駅、成田空港駅の5駅。京成線には京成成田駅、公津の杜駅、東成田駅、空港第2ビル駅、京成成田空港駅の5駅で計10駅です。

3月27日、合併によって新たに成田市の11番目の駅となる滑河駅は、今から108年前の明治30年12月29日に開業しました。これはJR成田駅・久住駅(明治30年1月19日開業)に次ぐ古さです。

駅舎は、大正9年に建設され、その後民営化を経てJR成田線となった現在まで、町の表玄関として利用されてきました。以来84年間親しまれてきましたが、町制施行50周年を迎えたことしの2月11日、新駅舎に生まれ変わりました。

新駅舎にはガラス張りの多目的室やスロープを設置するなど人に優しい設計が施されています。また、駅前道路や屋根付き駐輪場も整備されるなど、駅周辺が大変明るく近代的になりました。



新しくなった駅に電車が到着



人に優しい設計の新駅舎

利用客維持に「お座敷列車」を運行



昭和50年代に入ると自動車の普及により、年々利用客が減少し町の顔である滑河駅が危機に直面しました。当時の国鉄が経営合理化を図っているところでした。そこで、駅が民間委託や無人化になることを避けようと企画されたのが「お座敷列車」の運行でした。

第1回は、昭和55年の「善光寺まいり」

で、多くの町民が参加しました。この町民号「お座敷列車の旅」は、町からJRに企画が移行されましたが、現在も継続され、今年も伊豆堂ヶ島への旅でした。町民や周辺地域の人々が参加し、中には年中行事として楽しみにしている人もいます。



第1回の町民号「お座敷列車の旅」



東関東下り線大栄パーキングエリア

設置された大栄IC周辺ガイド



P

東関東大栄パーキングエリア

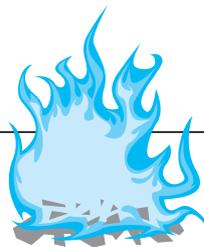
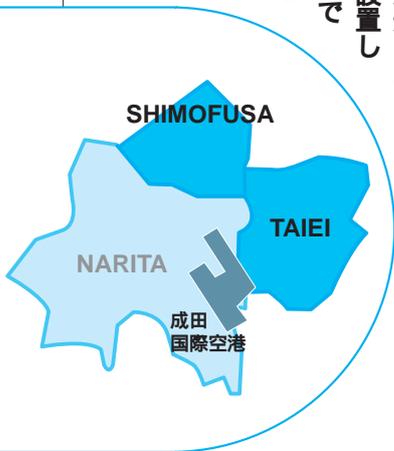
大栄町や周辺地域の 観光情報を発信

大栄町のほぼ中央を横断する東関東自動車道の成田 大栄間の開通は、昭和60年2月のことでした。

東関東自動車道の下り線、大栄パーキングエリアの店内に、「大栄IC（インターチェンジ）周辺ガイド」が設置されています。これはドライブの途中で休憩や食事に訪れた利用者の皆さんに、大栄町や周辺地域の観光・歴史などの情報をPRし、地域振興を図ることを目的に作られたものです。

この周辺ガイドは、タッチパネル式で、「伊能のおあそび」「奈土のおびしゃ」をはじめとするイベント・伝統行事、主要な施設、町内の季節ごとの観光情報などを見ることができます。

現在は大栄町を中心に構成してありますが、今後は成田地域、下総地域もあわせて紹介できるよう準備を進めています。また、成田、下総、大栄それぞれの地域の自然や文化などを撮影したビデオを、食堂に設置したフラスマテレビで映し出し、多くの皆さんに新成田市の紹介ができるよう計画しています。



桜田の大火

—さくらだのおおび—

毎年12月中旬、卯の日にあわせて開催される桜田熊野神社の秋祭りの前夜に行われる夜祭りです。

この祭りの由来は、桜田地区を流れる川に住むカッパの害から逃れるための神事として始められたといわれています。

薪を集めるなどの準備は子どもたちの手で進められます。焚き火の間をくぐると風邪を引かないといわれ、祭りになると赤々と燃える炎の中を元氣よく駆け抜けます。

日時 = 12月20日(火) 午後7時ごろから

場所 = 桜田熊野権現神社(大栄町立桜田小学校向かい) JR成田駅から車で約35分

問い合わせ先 = 大栄町役場企画財政課 ☎0478-73-8062)



火の粉が舞う中元氣よく駆け抜ける子どもたち

